

緑ヶ丘だより



コロナ禍の中での活動 205世帯
 緑ヶ丘南自治会会長 湯浅一弘

テレビでは毎日新型コロナのニュースで、増えたとか減ったとか、耳にタコができそうな状態です。早いもので、取り沙汰され始めて一年半が過ぎようとしています。その間、分かっていなかったことが徐々に分かり始め、マスク着用・手洗い消毒、そして三密の回避が不可欠となりました。ソーシャルディスタンスという新しい言葉も登場しました。

徐々に分かってきたとはいえ、それでもまだまだ分かっていないことも多く残っており、また新たな変異株も発見されて、新型コロナに対しては、新型コロナウイルスは存在せず不安に思う必要は全くないとする意見から、考えられる対策を実施してもまだ不安は多いとする意見まで相当に幅広いものとなっています。

世の中の多くの人が共通で持つことができる認識を「常識」と言います。いまの状況で言えば、マスクを外して大きな声で話したり、多人数で集まって食事をしたり酒を飲んだり、換気をせずに密閉した空間で多人数で過ごしたりといった行動をすると、「常識外れ」や「常識がない」と言われてしまいます。

コロナ禍の中で自治会活動も大きな制約を受けています。何かをしようとしても、様々な意見が噴出し、実施できないというような状況も垣間見られます。そんな中で、様々な意見を尊重しながらも集約し、自治会の中の「常識」を創り出し、形成した「常識」の中で可能な限りの活動を行うことが肝要だと考えています。

令和3年度役員・会員数

役職名	氏名	所属自治会	会員数
会長	湯浅 一弘	緑ヶ丘南	205
副会長	百瀬 智一	緑ヶ丘中央	
書記	衛藤久美子	小田急相武台南	119
会計	百瀬 智一	緑ヶ丘中央	238
会計監査	吉川 善康	さつき	167
幹事(防災)	加藤 洋	相武台緑ヶ丘	95
幹事(防犯)	田野口勝彦	新緑ヶ丘	127
幹事(市レク)	中村 敏雄	わかば	23
幹事(広報)	大塚 幸伸	緑ヶ丘六丁目	159
総連合会会長	湯浅 一弘	緑ヶ丘南	
専任理事	藤塚 捨雄	第一住宅相武台団地	171
		合計	1,300

発行 令和3年7月
 座間市緑ヶ丘地区自治会連合会

2期目の自治会長 238世帯
 緑ヶ丘中央自治会会長 百瀬 智一

去年の春、未知の新型コロナウイルス感染が拡大し始めて外出すらはばかられる中、会長を務めさせていただくことになりました。十分な引き継ぎもできず、例年通りも通用しない状況で、何かと手探りでしたが、以前自治会役員を務められた方々に色々教えていただきながら、また、自治会活動に熱心な班長さんに助けられながら1年間務めることができました。至らない会長でしたが、ご協力ありがとうございました。

役員さんからのご提案を受け、自治会の皆で力を合わせて実現できたこともありますが、解決できなかった引き継ぎ課題もありましたし、新たに問題を提起したものの理想を述べただけで何もできなかったこともありました。

さて2年目、さあやるぞ!と思い早3か月。地区自連で検討した事項を自治会に報告し、依頼された業務、自治会として継続して行わなければならない最低限の事業をこなしていくだけで何もできてない・・・。

長年代表を務めている会社や団体では自分が責任者として長期的視野に立ち、周りのスタッフと相談しながら計画的に進めていける事業でも、毎年ほぼ全員が入れ替わる当自治会の今の体制では困難だ...と言い訳したところでしたが、コロナ禍でマスク不足が叫ばれていた中で早くに自治会の備蓄を配布した自治会、ゴミ収集問題について市職員を招いて勉強会を開いた自治会、身近なところにも色々学ぶ機会がありました。少し視野を広げると、ワクチン接種に自治体が自治会を活用したり、自治会が支援しているニュースもあります。もっと素早く積極的に動いていれば自治会の存在意義を強くアピールできたのにと、反省しきりです。

地域の皆さんのためにできることをやっていけば人は集まって来てくれる。そう信じて引き続き自治会長を務めていきます。

サボっていたらお尻叩いてください。

自治会長になって 23世帯
わかば自治会会長 中村敏雄

令和3年度わかば自治会の中村です。わかば自治会は23世帯の小さな自治会です。座間市緑ヶ丘地区自治会連合会の他の自治会の班に相当する小さな自治会です。私は、平成24年に、わかば自治会の会計と社協を、担当させていただきました。会長になるのは、初めての経験です。会長になって3か月が、経過し、緑ヶ丘地区自連の他の会長さんの支援を、受け何とか無事に過ごす事ができました。

日本国内の状況は、新型コロナウイルス感染の収束の目途が立っていませんが、東京オリンピック・パラリンピックの開催が、決定し、高齢者の新型コロナのワクチン接種が、順調に進み、日本経済の回復の兆しが、見えてきています。

このような状況もふまえ、今後の緑ヶ丘地区自治会連合会において、防災活動、防犯活動、地域ふれあい活動では、去年は、新型コロナウイルスの感染拡大で、中止になった市民レクリエーションの開催も予想されます。今後、緑ヶ丘地区自連の自治会長の方々や、近隣の自治会長の方々の協力をいただきながら、このような活動に参加していきたいと思えます。



自治会長になって 119世帯
小田急相武台南自治会会長 衛藤久美子

5年前、座間市に引っ越しをしてきた時に自治会には加入していましたが、活動は美化デーに参加する程度でしたので、自治会についてほとんど知りませんでした。

この度、自治会長を引き受けることになり不安ではありますが、自治会に携わることは自分の住んでいる地域のことや防災・防犯について知る良い機会だと思っております。

コロナ禍の為、例年行っていた初夏の美化デーは今年も中止になり、除草作業は市へ依頼しました。今年度も大勢の人が集まる行事の開催は難しく、コミュニケーションの場が無いのは残念なことです。しかし、行事にかける時間が少なくなった分、役員業務のマニュアル化などに注力することで今後の円滑な自治会活動に寄与できればと考えております。不慣れな点もありご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、皆様のご協力を賜り1年間務めたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。



書記になって感じたこと 167世帯
さつき自治会 書記 大井節子

この町に住んで27年、3度目の班長が回ってきました。勝手に班長と決めていたのですが、役員選出会議の際に、なかなか手が出ず司会進行の会長さんもお困りのようでした。同じ班の会長さんでもあったので、ついつい目が合い、誰かのために役に立つのであれば、それも自治会の活動の一つと考え、書記の仕事を引き受けてしまいました。

いよいよ活動開始、初めての定例会の後に各班長さんにお願すべきことがあって、会長さんと会計さんの3人で、自治会内を歩いてみました。電柱の「土砂災害に注意しましょう」の表示が気になりました。未加入の家がかなりあることに驚きました。これが自治会の問題なのかな気づかされました。

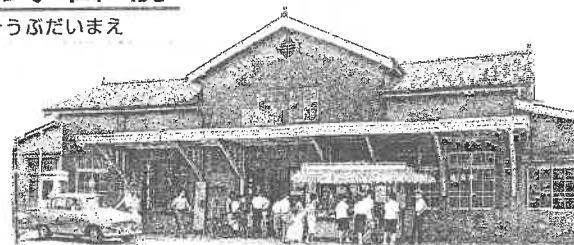
さて、書記の仕事ですが、引継ぎをされる時はわかったような顔をしてしまいましたが、いざ仕事を始めると考えさせられることばかりで戸惑いました。早速の自治会名簿作りでは、個人情報への遵守もあり提出していただいた個票と間違いがないように何度も班長さんに確かめていただきました。その個票を見て感じたことなのですが、お一人暮らしの方がいたり、かなり高齢化が進んでいるようです。「土砂災害に注意しましょう」の表示とつながってしまいました。いざ大きな災害が発生した時は、災害地のニュースなどで「地域の絆」を感じさせられる場面がよくありますがこの町は果たしてどうだろうかと不安になりました。実際に頼りになるのは人の力だと思います。その絆をしっかりと築くためには、自治会活動を改めて見直し、日ごろから交流を深めるように、会員の一人として関わっていくことも大事なことだと考えさせられました。気づいたこと、困ったことは声に出し皆で助け合える優しい町であることを願って活動して行こうと思えました。

(株)JTBパブリッシングより掲載の許可を得ております。

相武台前

生方良雄著 P96

そうぶだいまえ



自治会長となって思うこと 95世帯

相武台緑ヶ丘自治会長 加藤 洋

相武台緑ヶ丘自治会は、会員が95世帯あり、会則施行が昭和37年(1957)11月です。約64年という時間を経ています。ここから少しだけ昭和30年代の相武台緑ヶ丘にタイムスリップしたいと思います。当時、私の実家は駅前にありましたので、駅周辺や当自治会のある緑ヶ丘周辺の記憶がそれなりに残っています。

旧相武台前駅舎は、非常に高い天井の切符売場(兼改札口、待合室)があり、おそらく小田急の駅舎の中でもかなり立派な方の駅舎だったと思います。(歴史的経緯は省略)

昭和38年頃の相武台前駅舎の写真

出口は今の北口側に一ヶ所のみ

座間図書館 郷土資料貸出コーナー 生方良雄著

「小田急の駅 今昔・昭和の面影」P96

今ある駅前駐車場やバスロータリーのところは、舗装されておらず砂利が多い広場で、多数のバス路線発着停留所でした。その路線バスの中に神奈中バス「横浜駅東口行き」があったんです。車掌さんが乗っているごく普通のバスです。若い方は「えーっ、バスで横浜駅行き!?!」と、想像つかないかもしれません。実際に母親に連れられ、何度かそのバスに乗って横浜に行っています。始発から終点までの乗換えなしで、メインルートは旧16号線でした。砂利の広場は子供の遊び場でもあり、時々バスに邪魔されました(笑)が、よく野球ごっこをしていました。広くて遊べる場所はそこくらいしかありませんでした。

また駅舎の出入口は一ヶ所だけなので、線路の反対側(南側)へ行くには踏切を渡らないと行けません。駅前の行幸道路沿いには個人商店が何軒かありましたが、線路の反対側(南側)は、ほとんど桑畑だったと思います。

そして当自治会のあるところは、木々が茂った雑木林でした。小学生だった私にとっては、桑畑の農道を抜けて、雑木林に忍び込むという感じでしょうか。雑木林で夏は蝉取りや昆虫採集です。あとは探検と称して雑木林の中を遊び回ることでした。

かになが沢公園も整備されたのはずっと後で、当時は雑木林の中の急な崖地というような感じですから、子供にとっては危なっかしくて、ちょっと近寄りたが場所でもありました。

というような思い出を残し、今に戻ります。

当自治会も64年の時を刻み、否応なしに少子高齢化と核家族化の波を被っており、自治会としての身動きがギクシャクしてきています。しかもこの状況が今後も続いていくことは想像に難くありません。とすれば、自治会の在り方も変わらざるを得ない時期にきているように思いますが、濃霧の中に一筋の光明を探し出せるかどうかというような難題に直面しているように思います。

新緑ヶ丘地区の地区計画 127世帯

新緑ヶ丘自治会会長 田野口勝彦

緑ヶ丘1丁目と2丁目の一部の新緑ヶ丘自治会のエリア約10ヘクタールは、区画整理事業が完了した平成4年6月1日に地区計画が定められ、この計画の目標を達成するため、街づくり委員会を設置し、平成5年4月1日から「座間市緑ヶ丘地区街づくり申し合わせ」を施行しています。この後、平成6年3月20日に22世帯で新緑ヶ丘自治会が発足し、これら事務が自治会に引き継がれています。

「街づくり申し合わせ」の中身は、擁壁の保全や建築物の意匠(外壁や屋根の色彩等)、屋根の形状、緑化の推進、ごみ集積所の維持管理等であり、大多数の地権者や居住者は、これら基準を遵守し、良好な環境が維持されている状況です。

特にこの中で、ごみ集積所の管理については、いくつかの課題があり、色々な取組みを進めてきています。区画整理事業でエリア内に19か所のごみ集積所を整備しましたが共同住宅(令和2年度末現在56棟)が増加し、燃やすごみの収集日には、どのごみ集積所も満杯の状態になっており、これまでに、4か所のごみ集積所を増設しています。これらごみ集積所は、利用者により輪番で清掃管理を行っているところです。自治会内には、いまだに多くの遊休地や駐車場があり、毎年数件の専用住宅や共同住宅が建設されており、共同住宅の建設に際しては、ごみ集積所を開発区域内に整備するようお願いしております。また、座間基地や厚木基地に近いということから、外国人の居住も多くあり、ごみや資源物の集積所への出し方など意識啓発の難しさなどを感じているところです。

平成9年1月には、総工費 950万円を掛け自治会館を建設し、自治会活動の拠点として管理運営を行っており、今年5月時点での自治会員数は、127世帯となっております。ここ数年、配偶者の死去や引越等自治会員数の減少が顕著となっております。共同住宅に居住する住民にもできるだけ自治会活動に参画できるような工夫や取組みが必要となってきています。

参考:要支援者を守ろう NHK総合7月1日(木)

ひるなび:受けたい支援は人それぞれです。

メモを書いておこう!

「ここに僕の必要な情報が入っています」

ヘルプカード トリセツ(取扱説明書)

電動車椅子の扱い方など。

障害や配慮して欲しいことを具体的に書く。

コミュニケーションの取り方・介護の方法・

注意点などメモを周囲と共有。



ごみ対策をもっと身近に全員で

第一住宅自治会 只野洋子 171世帯

4月9日の「タウンニュース」で知った事だが、海老名市はゴミの一部有料化をして燃えるゴミを削減しているのだから座間、綾瀬市は焼却炉使用の分担金を増額すべきという主旨の議論がなされたことを。幸い否決されたので座間市民としては、ホットしたのだが今後、考えていかなければならない大きな問題と感じた。

これからゴミがどのように処理されていくのか私には想像もできない。身近すぎることで無頓着に見過ごしてきた気がする。周りを見回してみると未だ毎日出るゴミを一部の人の好意で集積所周りの清掃をしているというのが現状である。早朝から深夜まで働く若い世代、高齢化の私たち世代にこのようなことがいつまで続けられるのだろうか。これも大切な問題ではないかと思う。

ゴミ問題に小さな関心が出てきたのは近隣の集積所でカラスの被害が多発してきたことだった。集積所の近くに住む方々が掃除しているのを何度も目にしていたのに、自分では手伝う勇気もなく、ただ心で感謝するのみだった。

このことを海老名の友人になにげなく話したら「どうして一部の人の好意に甘えているの、ゴミはみんなの問題よ！」と驚きの声で言われたのは大きなショックだった。

折しも自治会では「カラスの被害対策」が議題として取り上げられていた。まもなく「ゴミ対策検討会」が発足しました。

勿論、カラスの被害は大きな問題だったが、カラスとイタチごっここの感があり、各々が生ゴミの出し方をきちんとする以外に名案はなかった。検討会ができたことでそれぞれのゴミの出し方に留意するようになったこと、掃除当番制ができたこと、そしてなによりもカラスの被害がすくなくなるという大きな進展があった。

また、市の資源課の方においでいただき、ゴミ事業の歴史、現状、将来に向けた循環型リサイクル事業等を聞くことができた。

古紙、古着、ペットボトルからの循環型社会、剪定枝からバイオマス燃料を製造することなど身近で気づかなかった「資源」が脚光を浴びてきたようで嬉しい気持ちになった。

これからの「ゴミ」を「護美」になるようにもっと身近にみんながかかわれる社会になったらいいなと感じた。

参考：「横断歩道の渡り方」 親が早くに教える。

横断歩道を渡る際は、右を見て、左を見て、また右を見て安全を確認してから渡る。車が止まったら、運転手の目を見て歩き出す。アイコンタクトをする。目があったら、軽く会釈する。横断歩道を渡ろうとする人を見ても停止しない車が少なくありません。ヒヤリハット・危険予知も教える。



交通事故発生！あなたならどうする？

緑ヶ丘六丁目自治会会長 大塚幸伸

159世帯

我が自治会の横に桜並木・つつじの生垣があり、生活道路が小田急線の踏切の抜け道となっております。このつつじの生垣が2月の初め、これから花が咲く直前に突然に剪定されました。なぜこの時期に剪定をしたのかと市の道路課に聞きに行くと、小学生の交通事故があったため教育委員会より通学道路の表示のある横断歩道わきの剪定を依頼されたのだと。我が家からは5軒先の横断歩道です。市の教育委員会に行き交通事故の話聞くが、個人情報保護のため教えられないと。

座間警察署に行き聞くがここでも教えられないと。県の情報担当に電話して話すと、署には住民相談係があるからそこに相談をしたらとのこと。立野台小学校に行き担当者に聞ける範囲のことを聞く。小学校1年生の1人での下校時の事故とのこと、発生日時も分かった。

その情報を持って警察署に行きケガの程度を聞くが、個人情報のため教えられないと。

次の交通事故を防ぐために事故状況・ケガの程度が知りたい・自治会の人達に周知して事故防止のためだと説明するがダメ。

それならばと、情報公開請求（行政文書公開請求書）を令和3年3月1日に出す。

3月10日に神奈川県警察本部長より行政文書一部公開決定通知書が届き、18日に県政情報センターに出向く。ほぼ全面黒塗りの「交通事故事件簿」が手渡される。ケガ等は黒塗。

市教育委員会にも文書にて問い合わせるが、ケガの程度は個人が特定され、いじめの恐れがあるので公表できない、交通安全教育は5年生の時に自転車の安全教育をしていると。テレビで見たが、二輪自転車は5歳で乗り始める！！

5月2日付けで、公安委員会に情報公開に関する審査請求をする。

弁明書の送付及び反論書の提出について文書が送られてきて、6月8日に提出した。

- ① 自治会として、次の交通事故を防ぐためにも、自治会員に対して事故が起きたこと、ケガの内容を報告する必要があると思ったので、情報公開を請求したが、被害程度の部分が黒塗りにされていた。
- ② 警察は、自治会及び学校が次の事故を防ぐためにも、被害者に事故状況等の情報公開の諾否を仲介すべきであり、その結果をもって公開できないと判断すべきである。3カ月・6カ月後とかに。今現在、結論待ちです。

学校・教育委員会・警察は交通事故のことは秘密裏に処理し、地元自治会長には一切教えず、つつじの剪定がなければ分からなかったのものです。

約1秒の差で事故が起きると、本人・家族、相手方、警察、消防、病院、学校、地域社会に影響が及びます。